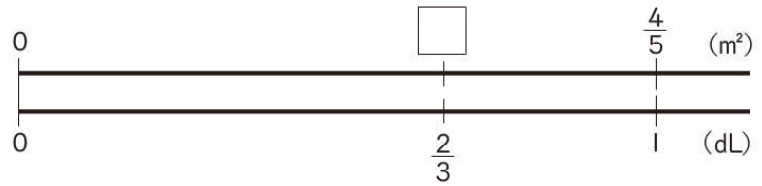
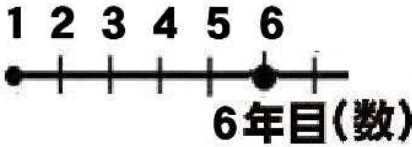


対応数直線図

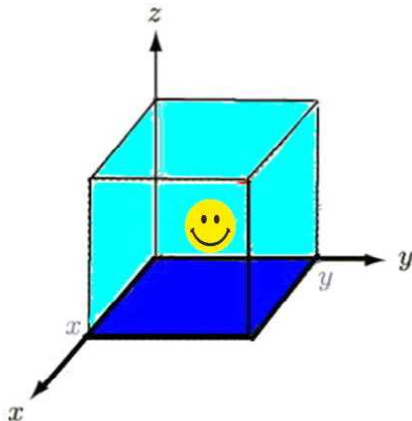
6年生では「文字と式」の学習が終わると次は、「分数のかけ算」「分数のわり算」に移ります。ここでは、図のような対応数直線図を使います。



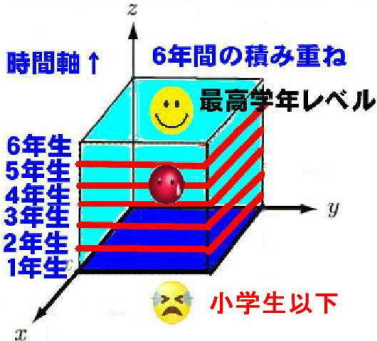
数直線図



線分図



学校社会という空間  
豊かな学び 育む人間性  
自分はどのレベルにいる？



点と線

さて、数直線図と線分図の違いを皆さんは、ご存知ですか？

簡単に言えば、数を扱うのが数直線図、量を扱うのが線分図です。数とは「点」で見る。量とは、線や面、立体等の大きさです。例えば、「時刻はその一瞬の時を刻む」即ち「点＝数」です。

「時間は時刻と時刻を結ぶ時と時の間」即ち「線＝量」です。算数においては、数量感覚を身に着けることは、とても大事です。問題の答えで、「お父さんの体重を2 kg」とあり得ない数字で答えたり、「代金を38 / 5円」と平気で分数で書くのは、数量感覚が伴っていないからです。

物事を数と量で見ることの大切さは、個と社会の関係や位置づけにも及びます。自分（点）は社会という空間（量）で、どの位置にいるのだろうか。教室・学級という「学びの社会空間」で自分は何をどう学ばばいいか等、社会性に関わります。数量感覚は、空間認知や自己認識に相通じます。

歴史文化を受け継ぐ



命の連続性は、「受け継がれる命」「将来に生きる命」にあって、それは一瞬一瞬（点）の連続（線）即ち数直線です。

命の限界は、「生まれ・生きて・やがて果てる命」にあって、それは一代限りの線分です。ヒトの歴史は、「線分図が連なった数直線図」です。私たちは時空という四次元世界に点で生きています。そして点は連続した線となり、点や線が密集して面となり、積み重なって立体となり得ます。

地域もまた、個々人（点）の集合体（面）であって、そこに時間（時代）の経過を伴って、歴史文化という立体が幾重にも積み

上げられていきます。私たちが教える算数は、ただ計算ができればいいだけの形式で終わるものではありません。算数を通して数量感覚や空間認知力を身に着けることで、様々なものの見方や考え方、社会性（個と社会の関わり）を育み、今後の生き方に活かしていければと考える次第です。